



# NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX 052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



## 【外部審査結果】……〈ISO揭示板〉……

10月25日から27日の3日間で更新審査が行われ、適用規格〔ISO9001・14001：2015〕の中で改善指摘事項は発見されず、規格の要求事項を満たしており、更新が推薦されることとなりました。今後、より良いMS（マネジメントシステム）とするための、「改善の機会」が16件、活動にみられる良い点としての「グッドポイント」が3件という審査結果でした。改善の機会、グッドポイントを「リスク及び機会」と捉え、全社でMSを見直して行きましょう。「総合所見」「グッドポイント」「改善の機会」の一部を紹介します。詳細については部門長に配布した「審査報告書」で確認してください。

### 【総合所見】 MSの状況（抜粋） ……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……

- ・この3年間のマネジメントシステム運用の成果として、継続的改善に対する各種取組みが評価され、社員の方々の自らの貢献に対する意識の高さが裏付けられ、新たな文化として定着しつつある状況でした。一方、事業プロセスへの環境活動の取込みに課題が継続していました。また、マネジメントのパフォーマンスに関連し、顧客満足度の向上に課題が観察されました。
- ・2015年版移行後の維持の状況では、部署の課題に対する共通認識が深まり、組織内の「協働」が機能している状況が特徴的でした。システム構築上の変更の必要性はないと判断できましたが、**リスク及び機会での中期経営計画に於ける課題の明確化**、部門に於ける**課題の抽出から特定に至るプロセスの統一**等を行う事により、要求事項への対応がより明確になるものと思えました。
- ・運用面では、順守義務に於ける**環境法の参照・特定・管理全般、緊急事態の特定に早期対応が期待される**状況でした。施工関連では、**リリースに於ける責任・権限、施工図の配布管理、施工前検討会等**に課題が観察されました。また、内部監査、マネジメントレビューの効果的な運用に向けた提案、クレーム等の発生から是正に至るシステム運用の新たな取組も観察され、その定着が期待されました。

### 【グッドポイント】 3件（概略） ……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……

- (1) 「NEWS ECO」は、外部審査の結果、内部監査の報告、マネジメントレビューでの経営者の指示事項、2015年版規格講習会の案内、ISO14001:2015規格の概要説明等、ISOの揭示板として幅広く情報の提供が行われ、コミュニケーションツールとして効果的に機能している状況と評価できました。また、経営者の役割と規定されている「統合マネジメントシステムへの人々の積極的参加を支援する」を実践した活動としても評価できました。
- (2) 営業企画部では、広く参加者を募り、自社の施工現場の視察を行い、「現場視察レポート」を作成していました。施工担当者とのコミュニケーションによる設計・積算時と施工段階での相違、設計図書に記載のない積算時の考慮事項を学ぶ等、体験を通して実践的な技術力を向上させる取組として評価できました。また、視察結果を「設計チェックリスト」、「積算チェックリスト」に反映する等、業務改善に向けた取組が実務に展開され、機能している事が確認できました。
- (3) 期ごとに「目標カード」で個人の目標・課題を設定し、半期、通期で本人、上司が到達レベルを協議/評価して、次の期の活動に繋げる仕組みでした。評価の際に、到達レベルだけでなく、「行動評価：達成のための取組みはどうであったか」を評価しており、このことは活動のプロセスを重視した仕組み/内容といえます。

### 【改善の機会】 16件（抜粋・概略） ……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……〈ISO揭示板〉……

- (1) **〈顧客満足〉** 顧客満足度アンケート実施結果によると、71期の平均点は84.3点、72期の平均点は76.5点、73期上期では75.3点であり、経年での評価点の下落傾向が読み取れました。乖離の大きい項目として「安全意識」、「協調性」、「礼儀、言葉使い」の3項目が確認できました。施工プロセスで重大な問題の発生を示唆している可能性もあり、これらの分析結果から取り組む必要のある課題を明確にし、「リスク」として管理する必要がないか検討の余地がありました。
- (2) **〈運用管理〉** 施工計画書には、顧客所有物及び協力業者の所有物の管理表がありますが、作業所での確認では、識別、検証、保護防護の具体的な実施手順が曖昧です。協力会社との請負契約においては所有物を管理すべき対象はあまりないとは思いますが、どのような時に所有物が管理対象になるのか、またどのように管理するのか手順を決めておくことに改善の余地があります。
- (3) **〈緊急事態〉** 「緊急事態対応手順書」には、部門長が緊急事態を特定することが規定されていますが、技術部において特定された緊急事態が何であるか曖昧です。実際には“産業廃棄物の処理”に関わることや“ピット作業（酸欠/硫化水素中毒）対応手順”等があるようですので部門として特定し、技術部から参照及び周知できるように工夫する余地があります。
- (4) **〈内部監査〉** 内部監査でのPDCAサイクル管理の観点から、内部監査方針に基づくマネジメントシステムの評価を明確にする事も必要と思えました。また、各部門の監査結果は、環境に関する記載が少ない状況であり、チェックリスト等での工夫の余地を感じました。

## シブヤの庭・11月

台風一過、強い冬型の気圧配置となった日本列島。木枯らしが吹き、朝の駅ではコート姿で通勤、通学する人が増えました。これから紅葉の季節という11月なのに、何故か今年の秋は早目に過ぎ去ろうとしているように感じるこの頃です。

『駐車場の“ユズ”に沢山の小さな白い花が咲きました。今年の冬は期待できそう！！』と6月のNewsECOに記事を書かせてから半年が過ぎました。そして、“収穫の秋”大きさは不揃いですが300個弱の実を収穫することが出来ました。

本社の皆さんには、収穫した“ユズ”を配ることができました。この、シブヤの庭の“ユズ”、今年の冬が「香り納め」かもしれません。新社屋建設工事に際し、果たして生き残れるか？料理にユズ湯に香りを楽しんでほしいと思います。

